

特別支援教育情報交換会メールニュース

2023年3月号 (Vol. 5, No. 2)

日本作業療法士協会 制度対策部 障害保健福祉対策委員会 障害児支援班 (教育領域支援推進チーム)

● 教育領域への参画に向けた意見交換会を実施しました

2023年1月28日(土) 13時半～16時半の日程で、「2022年度教育領域への作業療法士参画に向けた意見交換会」(以下、意見交換会)を実施しました。意見交換会は、昨年度の実施に引き続き、教育の領域への作業療法士参入の戦略を各地域の実情に合わせて検討していくために、教育領域に対する各士会の取り組みや課題について情報を共有するとともに、他士会との横のつながりを広げる機会になることを期待し、日本作業療法士協会 制度対策部 障害保健福祉対策委員会 障害児支援班 教育領域支援推進チーム(通称、教育チーム)が企画したものです。

当日は、41士会から87名(特別支援教育に関わる士会担当者)にご参加いただきました。プログラムは、本制度対策部部長の酒井康年常務理事による講義「特別支援教育に関する最近の話題と作業療法士の参画」に始まりました。酒井康年常務理事からは、学校教育、特別支援教育を取り巻く最近の情勢、特に昨年9月の日本の特別支援教育に対する国連勧告の内容と背景について説明し、作業療法士が学校教育へ参画していく上で必要な社会情勢等の情報提供を行いました。

その後、話題提供として、岩手県士会の二階堂静さん(「岩手県作業療法士会における特別支援教育に関する取り組み」)からは、教育領域への働きとして、県士会の「子ども委員会」の役割についてご説明いただきました。発達領域が専門「じゃない」作業療法士であっても、学校支援のニーズに応えていけるようになるための仕組みづくりについて紹介していただきました。三重県士会の堀池恵里さん(「三重県の学校内OTの実情と取り組み」)からは、県内の特別支援学校で働くセラピスト・OTの実情と今後の展望についてご説明いただきました。2021年に「セラピスト連絡会 OT分科会」を立ち上げ、横のつながりを強める中で課題を共有し、「特別支援学校で働くOT」を県士会内外へ発信するに至った経緯などをお話ししていただきました。

話題提供後は、近接する士会で9つのグループに分かれ、「特別支援教育に対する各都道府県士会としての取り組み」というテーマで、地域別グループディスカッションを行いました。教育領域への作業療法士参画の現状と課題(とりわけ人材発掘・人材育成に関する課題が目立ちました)、士会が取り組んでいる活動や窓口・実働組織、「学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会」基礎編の実施状況などについて、限られた時間の中でしたが意見交換しました。それぞれ共通する課題点やそれに対する取り組みなどを共有する中で、教育領域で働く作業療法士を増やしていくためのヒントが得られた機会になったのではないかと思います。

意見交換会は、次年度も開催を計画しております。今後も、教育チームの活動に対して、皆様のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。